

みちのく環境だより

環境省東北地方環境事務所

<http://tohoku.env.go.jp>



「伊豆沼にて（ツルシギ）」

東北地域における環境問題の取組と東北地方環境事務所の活動内容を紹介しています。

「ESD」とは？

「ESD」は Education for Sustainable Development の略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。

「ESD」とは、一人一人が自然環境や資源の有限性、地域の将来性など、様々な分野とのつながりを認識し、持続可能な社会の実現に向けて行動する人材を育成する教育のことです。



<環境省、文部科学省統一ロゴ>

講演

◆ 小金澤教授による



◆ 成果発表会の様子



◆ 各県の団体がお互いに交流を深める



東北地区ESD環境教育プログラム成果発表会が開催 ESDってなあに？知ろう！学ぼう！行動しよう！

平成26年2月1日(土)に東北地区ESD環境教育プログラム成果発表会が仙台市シルバーセンターで開催されました。東北各県の6団体が今年度の事業成果を発表しました。

持続可能な地域づくりを担う人材づくりの先進地域を速やかに形成することを目的として、環境省の請負事業「東北地域における持続可能な地域づくりを担う人材育成事業に係るESD環境教育プログラム」の作成等業務は公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)が請負い、東北6県のNPO団体等による実証等に取り組みました。各県で組織されたプログラム策定委員会においては、環境省が募集・作成した20の環境教育プログラムの中から1つを選び、これを元に地域性に

配慮して独自の環境教育プログラムを作成しました。そして、各県の活動団体は、策定された環境教育プログラムをもとに、事業期間中に学校や地域などで環境教育プログラムを実践し検証しました。当日の成果発表会では、「ESDと人づくり・地域づくり」と題し、宮城教育大学国際理解教育研究センター長の小金澤孝昭教授が基調講演を行いました。その中で、今後のESD活動を推進するうえで、世代間を超えた地域に根ざした継続的な活動の重要性を強調されました。(次項につづく)

環境省と文部科学省は、ESDの推進に取り組んでいます。

「今、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があります。ESDとは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。つまり、ESDは持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。」<文部科学省ホームページより>

※ESDの取組の促進を目的として、平成22年度より環境省が進めているプロジェクト(+ESD)については、以下のURLよりご覧頂けます。

<https://www.p-esd.go.jp/top.html>

東北6県ESD環境教育プログラム概要

青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県の各団体が実証したプログラムを紹介します。

〈青森県〉
身近な公園をもっと知って、魅力を伝えよう！

NPO法人 かなぎ元気倶楽部

毎年ゴールデンウィークには全国から約30万人以上の観光客が訪れる県立芦野公園。130ヘクタールに及ぶ広大な園内には樹齢百年を超えるソメイヨシノをはじめ、多



▲ 自然公園の歴史を学ぶ

▼ 公園散策マップを作成



種類2200本もの桜が華やかさを競い、全国桜百選にも選定されています。この由緒ある身近な公園についてもっと地域の人が学び、理解し、今やるべきことは何か、そして後世に伝えるべきことは何かなどを考え、その思いを一緒に形にすることによって、より多くの人々が今以上に地域に愛着をもってもらう取組を行いました。

〈岩手県〉
ふるさとの川の水がつかなく自然のめぐみと人のくらし

非営利活動法人 環境ハートナーシップいわて

自然体験の機会が少ない児童が、生物の採集や調査により地域を流れる川を体感する体験活動中心のプログラムです。

きれいな水を利用した豆腐の手作り体験では、大豆に関する理解を深め、地元の農産物を大地の恵みと感じ、先人から伝わる伝統技法により美味しく味わいました。

川の体験活動では、水生生物・植物、野鳥、湧水などの視点から川を見るため、地域の海洋生物専門家の協力のもと、異なる季節に2度の体験をし、違いを体験しました。

その後課題を追求するために

本や資料、インターネットなどで学習しました。その成果を、学校だけでなく保護者や地域の人々に向けても発表しました。地域を流れる川の情報を共有し、川をより身近なものとして認識してもらう取組を行いました。

▼ 冬の川の観察会



▲ 豆腐の手作り体験

〈秋田県〉
MOTTAINAI(もったいない)の松林を秋田方式で未来へ

一般社団法人 あきた地球環境会議

ESDの推進にあたっては、次世代を担う子どもたちにとって「地域の恵みに気付き守る心を育てる事」、「ふるさとを愛する心を育てる事」に気づいてもらうこと

▼ マツノサイセンチュウを媒介する「マツノマダラカミキリ」の標本



▲ 松枯れの被害と実態を学習

が重要です。本プログラムは、地域に昔から存在する「松林」に焦点を当て、①「何故秋田の海岸には松が存在するのか？」を学び、②「松枯れの被害の現状と今後私達がすべき事」を考えました。さらに、③「マツ枯れ防除秋田方式（炭やきで夕日の松原まもり隊）」と一緒に活動してみよう」を通じて、ふるさとの松林の恵みを認識し、大切にすることを育みまし。将来にわたり持続可能な社会を創る人材の育成を目指す取組を行いました。

〈宮城県〉
カキを通して
宮城のきれいな海を守ろう！

NPO法人
まなびのたねネットワーク

本プログラムは、学習者自身が価値観を見つめ直し、よりよい社会づくりに参画するための力を育むことを目的として取り組みました。

東日本大震災で甚大な被害を受けた特産物でもある「カキの養殖」と海岸に漂着した「ゴミ拾い」を通して、海の環境について現状を確認しました。また、カキ養殖に携さわる漁師（生産者）の



▼ 海岸での清掃活動



▲ カキむき体験

仕事の工夫や思いを聞き、美味しいカキを食べ続けるために、自分達たちが日常的にできることを考え、環境に対する意識を高めました。

〈山形県〉
鮭をとおしてかんがえる
川のこと、食のこと

カワラバン

鮭川は、春にはサクラマス、夏にはアユが釣れ、秋にはサケが遡上することから、それらの川魚を使った郷土料理が数多くあります。

郷土料理はその地で得られた食材を、その地の気候・風土にあっ



▼ 郷土料理づくり



▲ 鮭の増殖現場を観察

た調理法で調理されたもので、その地域で長く伝承されてきました。鮭川村は自然環境が豊かであり、川だけでなく山野の幸を利用したおいしい郷土料理が数多くあります。

本プログラムは、地域に伝わる郷土料理づくりをおして、その地の気候や風土、自然環境等を目を向けることで地域の素晴らしさを再認識し、それらの郷土料理をいつまでも伝承できるように、地域や環境に対して行動できる人材育成を目的として取り組みました。

〈福島県〉
森・川・海をつなぐの中からの
いのちの輝き伝えよう

NPO法人
いわき環境研究室

本プログラムは、いわき市の学校において、河川の流域のそれぞれの地域の環境に応じた環境学習を実践することをねらいとしており、学校間の交流をおして、故郷の価値を発見し、ふるさとへの愛情を育むことを目的として取り組みました。

子ども達が野外で学習活動に携わるフィールド全てを「ビオトープ」として捉え、環境教育・学習を実施しました。観察会では、自

＜お知らせ＞
「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議」が開催されます。

11月4日～8日

岡山市

11月10日～13日

名古屋市

然環境の豊かさを実感し、森の整備活動では、森が生み出す水の役割を体得しました。

この学びを発信し、森・川・海のつながりの中で、共に高め合うために、上流域の学校は中・下流域の学校と、中流域の学校は上・下流域の学校と、下流域の学校は上・中流域の学校と交流しました。

▼ ふるさとを思い
暮らしを学ぶ



▲ 森の観察会



地域活性化を担う 環境保全活動の協働取組推進事業報告会が開催

平成26年2月22日(土)に平成25年度地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業報告会Ⅱ「協働ギャザリング2014」が東京都内のイベントホールで開催されました。

この報告会は、環境教育促進法に明記された、環境保全活動の協働取組をより推進していくため、「環境保全活動を進めるための協働取組のありかた」を、

今年度の成果報告を基にして、協働の主体となるNPO/NGO、行政、企業、中間支援組織、専門家らが集い、理論と実践の両方から学び、対話を深めていく目的で開催されました。

採択された15団体が事例報告



◆ ワークショップにて意見交換

を行い、ワークショップを通じて互いの意見交換を行う中で地域における「協働」プロセスについて学び合いました。

東北からは、「一般社団法人持続可能で安心安全な社会をめざす新エネルギー活用推進協議会(JASFA)」が採択団体として発表しましたので、その概要を紹介します。

東松島市の復興を支援する環境保全協働取組事業

JASFAは、被災地を中心に産学官の研究知財を応用するとともに、地域社会に普及促進が図れる技術の発掘と活用推進を目指している団体です。

今回活動のエリアとして選定した東松島市は、「環境未来都市」構想の推進を図っていますが、これを担う人材不足、市場への訴求力不足が課題でした。そこで、JASFAは、東松島市と協働で『環境保全活動への幅広い波及』を図ることを目的とし、他地域の取組

<お知らせ>

平成26年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業の公募締切り迫る。(3月31日17時必着)

環境省では、地域における課題解決や地域活性化の上で重要な役割を果たしているNPOの活動、ソーシャルサービス等人材、資金、信頼性向上の点から支援するために、中間支援組織の体制強化や地域における協力・連携体制の整備等を促進する「地域活性化に向けた協働取組の加速化事業」を実施しています。

詳しくは、環境省ホームページで公開されておりますので、ご覧下さい。

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=17868>

地方公共団体・事業者向け支援事業

【平成26年度エネルギー対策特別会計における補助・委託等事業(パンフレット)】が環境省ホームページで公開されておりますので、ご覧下さい。

http://www.env.go.jp/earth/ondanka/biz_local.html

を参考にして、「協働取組の方法」や「手順」について事業展開してきました。

事業の内容は、被災者就労支援事業として環境関連専門講座、市民向け環境関連講座を開設し、東松島市の「環境未来都市」構想を担う人材を地域創出するために、教育委員会と連携しながら、一般社団法人東松島みらいとし機構(HOPE)と協働し、ESD視点を組み込んだ環境教育を実施しました。

その結果、「環境未来都市」構想に選定されている東松島市からは、協力、連携、協働へと新たな展開を可能とする団体として受け入れられました。加えて、当初の被災者就労支援の延長として大人への環境教育を、さらには将来の担い手である子ども向け環境教育を通して市の政策と市民協働を推進することとなりました。

平成26年4月7日には、東松島市とJASFAによる「協定締結」が予定されており、今後、自治体との更なる「協働」を推進していくこととなります。

災害廃棄物処理の進捗状況(概要)

東日本大震災から3年が経過し、目標期間(平成26年3月末)での処理完了に向けて着実にがれき処理は進んでおります。ここでは、がれき処理をめぐる近況を報告いたします。

環境省は2月21日、1月末時点の災害廃棄物等処理状況を公表いたしました。

岩手県及び宮城県全ての市町村において災害廃棄物処理割合が9割を超過しました。また、津波堆積物についても、岩手県の処理割合が9割を超え、宮城県では残り2%となるなど、処理計画に基づき着実に処理が進捗しております。

岩手県及び宮城県については、災害廃棄物、津波堆積物とも平成26年3月までに処理可能と見込まれます。今後も目標期間内の処理完了を目指して、きめ細かな進捗管理を実施していく方針です。

福島県の災害廃棄物処理の進捗状況は、処理量が推計量の3分の2を超え、着実に処理は進んでいます。きめ細かな進捗管理や処理の加速化が必要な状況です。目標期間内に仮置場への搬入完了を目指すと共に、本年度末までの処理を可能な限り進め、できるだけ早期の処理完了を目指します。

○3県沿岸市町村(岩手県、宮城県、福島県(避難区域を除く)の処理状況(平成26年1月末現在)

	災害廃棄物等推計(万t)	災害廃棄物			津波堆積物			仮置場設置数
		推計量(万t)	処理		推計量(万t)	処理		
			量(万t)	割合(%)		量(万t)	割合(%)	
岩手県	556	400	388(368)	97(96)	156	145(138)	93(90)	19
宮城県	1,874	1,121	1,106(1,103)	99(98)	753	739(715)	98(95)	22
福島県	349	174	119(111)	68(64)	175	78(73)	44(42)	27
合計	2,778	1,694	1,613(1,582)	95(94)	1,084	961(926)	89(86)	68

※()内は平成25年12月末の数値。

小型家電リサイクル法が施行されました

平成25年4月、小型家電リサイクル法が施行されました。

この制度は、現状では大部分が埋立処分されている使用済み小型家電製品から有用な資源を取り出しリサイクルすることを目的とした仕組みです。日本で一年間に発生する使用済み小型家電製品は65万トンにも及び、この中から回収できる有用資源は28万トン、金額に換算して844億円と推計されています。そのため、使用済み小型家電は、都市にある鉱山という意味で、「都市鉱山」と言われています。

こうした都市鉱山に埋もれた資源をリサイクルし、有効に活用するため、デジカメ・携帯電話・ド

ライヤーなど100品目以上の使用済み小型家電製品(家電4品目を除く)を対象として、市町村が収集を行い、これまで廃棄されていた有用金属等を取り出します。

現在、青森県八戸地域、岩手県一戸町及び一関地域で、環境省の実証事業が進行中です(事業終了後、報告書をホームページに掲載予定ですので、ぜひご覧ください)。

この制度は、準備の調った市町村から順次開始されます。お住まいの市町村で収集が始まりましたら、ぜひ、ご家庭で眠っている小型家電製品の分別回収にご協力ください。



このマークの付いた回収ボックスを目印に小型家電の分別回収にご協力ください。



制度の概要は、パンフレットにわかりやすく紹介されていますので、どうぞご覧ください。
http://www.env.go.jp/recycle/recycling/raremetal/s/attach/pub_pamph1303-1.pdf

※災害廃棄物処理状況については、以下の URL よりご覧頂けます。

<http://kouikishori.env.go.jp/news/index.html#news131129a>

冬のレンゲ沼・中瀬沼 スノーシューハイキング

平成26年2月23日、小雪がちらつく中、磐梯朝日国立公園裏磐梯地区において「冬のレンゲ沼・中瀬沼 スノーシューハイキング」を行いました。参加者は17名で、多くは近隣の福島市・郡山市からですが、遠くは東京都から参加して下さった方もいました。最初に自己紹介と準備運動を行い、スノーシューを着用した後、3班に分れて出発しました。

夏は、うっそうとした緑のトンネルだった遊歩道が今は真っ白な雪に覆われ、自由に歩くことができます。雪原には、一見生き物の気配は感じられませんが、よく見ると小動物の足跡や木々の冬芽、そして動物が冬芽を食べたあとがあららこちらに見つかりました。案内役のパークボランティアが、「あの足跡はリスのもの」、「あの食痕は野ウサギのもの」、「この木にはクマの爪痕があるよ」と、いろいろな解説をして下さいました。

コース半ばにある中瀬沼展望台では、天気によければ明治21年の水蒸気爆発の跡とそこに点在する湖が眺められますが、小雪のちらつく天候であったことから、残念

ながらその姿を望むことはできませんでした。しかし、冬の楽しみには熊棚を見ることができました。熊棚とは、熊がミズナラやコナラ、クリなどの木に登り、枝を折ってドングリなどを食べた跡です。そういった生き物たちの行動をたどることができるとも冬ならではです。

全長2km、時間にして約2時間間のスノーシューハイキングでしたが、あつという間に終わってしまいました。参加者の方からは、「楽しかった」、「夏と違い普段見られない景色がよかった」、「木の名前がいくつか覚えられた」などの感想をいただくことができました。主催者としても事故無く参加



◆ 雪山をスノーシューで散策



◆ パークボランティアからの説明



◆ 熊棚



◆ ノウサギの足跡

「伊豆沼・内沼研究集会」が開催



平成26年2月8日(土)に、宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター(同県栗原市)において、「伊豆沼・内沼研究集会」が開催されました。

本集会は、宮城県北部に位置する伊豆沼・内沼の自然環境の保全を推進することを目的に、(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団が主催したもので、今回で8回目となる集会には約50名の出席者が

者の皆さんと一緒に、楽しく冬の裏磐梯を歩くことができ有意義で

ありました。

集会では、研究機関の研究員、大学生、高校生などから、主に同沼における在来植物の復元、外来植物の駆除など10題の研究テーマで成果発表がありました。同沼において個体数が減少している沈水植物クロモの移植実験で有効な移植方法が確認され、生態系の復元のためクロモ群落の復元を成功させたいと訴える高校生の発表が印象的でした。

このような取組を通じて同沼を中心とした宮城県の湿地への知見を深め、併せて同沼に関わる人々の情報交換の場としての活用の推進が期待されています。

した。

これから様々なイベントを開催します。

詳細はそれぞれの問い合わせ先にご確認ください。

期日	行事名	開催場所	行事概要	参加対象	参加費	問い合わせ先	ホームページ アドレス
4/26(土)	スノーシュー ウォーク第3弾	青森県 十和田市	猿倉温泉から乗鞍 岳まで登山します。	小学3年生 以上	2,000円	自然公園財団十和田 支部 0176-75-2368	http://www.bes.or.jp/towada/
4/26(土)	浄土ヶ浜定例観 察会:春	岩手県 宮古市 浄土ヶ浜	春の浄土ヶ浜で植 物等の観察会を行 います。	親子 一般	100円	浄土ヶ浜ビジターセン ター 0193-65-1690	http://www.jodogahama-vc.bz-office.net/
4/27(日)	網張スキー場ゲレ ンデ、春の宝さが し	岩手県 岩手郡 雫石町	ミズバショウ・フキノ トウ等の早春の芽 吹き観察会を行 います。	一般	大人 800円 小人 600円	網張ビジターセンター 019-693-3777	http://www17.ocn.ne.jp/~amihari/
4/27(日)	五月人形を作ろう	山形県 鶴岡市 月山ビジ ターセン ター	木の木端から組木 の五月人形を製作 します。	一般	700円	月山ビジターセンター 0235-62-4321	http://www.tsuruokakanko.com/haguro/kankou/visitor.html
4/28(月) ～ 10/27 (月) の毎日曜 日	網張の森ミニ観 察会	岩手県 岩手郡 雫石町 網張の森	動植物の観察会を 行います。	一般	300円	網張ビジターセンター 019-693-3777	http://www17.ocn.ne.jp/~amihari/
5/1～5/3 5/5～5/6	クラフト体験教室	山形県 鶴岡市 月山ビジ ターセン ター	ゴールデンウィーク 中に、手軽にできる クラフト体験コー ナーを開設します。	一般	200円 ～ 700円	月山ビジターセンター 0235-62-4321	http://www.tsuruokakanko.com/haguro/kankou/visitor.html
5/3～5/6	お鷹ぼっぼの絵 付け	山形県 酒田市 猛禽類保 護セン ター -鳥海イヌ ワシみら い館-	山形県の伝統工芸 品「お鷹ぼっぼ」の ルーツを探りなが ら、絵付けをす ること でワシタカ類の体 の特徴を理解しま す。	一般	500円	猛禽類保護センター -鳥海イヌワシみらい館 - 0234-64-4681	http://www.raptor-c.com/index.html
5/3(土)	アワビの貝でスト ラップ作り	岩手県 宮古市 浄土ヶ浜 ビジター センター	アワビ貝を使ってス トラップを製作しま す。	一般	500円	浄土ヶ浜ビジターセン ター 0193-65-1690	http://www.jodogahama-vc.bz-office.net/
5/4(日)	自然観察会「みど りの日の集い～峨 籠峡から高山を 散策～」	秋田県 藤里町	峨籠大滝、峨籠峡 及び高山等を散策 します。	半日程度 のハイ キング が できる こと (小学 生以 下は 保護 者同 伴)	200円	白神山地世界遺産セン ター(藤里館) 0185-79-3001	

期日	行事名	開催場所	行事概要	参加対象	参加費	問い合わせ先	ホームページ アドレス
5/5(月)	みどりの日 花の 苗プレゼント	山形県 鶴岡市 月山ビジ ターセン ター	リニューアル1周年 を記念して花の苗 をプレゼントしま す。	一般	無料	月山ビジターセンター 0235-62-4321	http://www.tsuruokakanko.com/haguro/kankou/visitour.html
5/5(月)	てくてく観察会	山形県 鶴岡市 月山ビジ ターセン ター	ビジターセンター周 辺のミズバショウ、 ザゼンソウの観察を 行います。	一般	無料	月山ビジターセンター 0235-62-4321	http://www.tsuruokakanko.com/haguro/kankou/visitour.html
5/10(土)	十和田湖西岸自 然観察会	秋田県 小坂町	鉛山から銀山間を 歩き、早春の花の 群落などを観察しま す。	小学3年生 以上	2,000 円	自然公園財団十和田 支部 0176-75-2368	http://www.bes.or.jp/towada/
5/10(土)	春を五感で楽しも う	山形県 鶴岡市 月山ビジ ターセン ター	待ち望んでいた春 を五感で楽しみま す。	一般	500 円	月山ビジターセンター 0235-62-4321	http://www.tsuruokakanko.com/haguro/kankou/visitour.html
5/11(日)	春を染めよう草木 染	山形県 鶴岡市 月山ビジ ターセン ター	冬に枝折れした桜 から染色液を作りス カーフを染めます。	一般	2,000 円	月山ビジターセンター 0235-62-4321	http://www.tsuruokakanko.com/haguro/kankou/visitour.html

環境省東北地方環境事務所

〒980-0014

仙台市青葉区本町3-2-23

仙台第2合同庁舎

電話:022 (722) 2870 (代表)

FAX :022 (722) 2872

電子メール: REO-TOHOKU@env. go. jp

(リサイクル、有害廃棄物輸出入関係、地球温暖化対策、石綿健康被害等に関すること)

電子メール: TOHOKU@env. go. jp

(国立公園、エコツアーリズム、自然再生、野生生物、外来生物等に関すること)



初夏の息吹
【白神山地世界遺産地域】
【アオモリマンテマ】

遅れた春を感じる頃。岩肌にたたずむ白い花。照りつける陽ざしが、初夏を感じさせます。



ブナとキノコ
【白神山地世界遺産地域】
【櫛石山】

倒れたブナから生えたナメコたち。晩秋の元気なブナが映し出されていました。



雪迎え
【十和田八幡平国立公園】
【十和田湖畔・休屋】

雪が降る前に子蜘蛛が糸を伸ばして飛んでいく。冬がくる。

環境省では、11月13日(水)～11月17日(日)に仙台国際センターで「第1回アジア国立公園会議」を開催しました。その会場で、アクティブレンジャー写真展を開催し東北地方の国立公園や世界遺産地域、鳥獣保護区の魅力をアジアの方々に発信しました。

展示したのは、アクティブレンジャー10名が撮影した写真の中で厳選した「風景」と「生き物」の写真です。

皆様方も今一度自然の魅力を感じ取ってください。



ブナと共に
【十和田八幡平国立公園】
【北八甲田】

ヤシャビシヤクはブナの樹洞などに生える植物です。豊かなブナの森は多様な生命を育てています。



赤の装い
【十和田八幡平国立公園】
【大沼】

山の木々達は赤や黄金色をまとった華やかな秋の装い。ツタウルシは「自分はこちらにいるよ」と言っているようです。



早春の一コマ
【国指定森吉山鳥獣保護区】
【ノロ川の森】

トウホクサンショウウオが産卵(さんらん)する
タイミングに遭遇(そうぐう)する
チャンスを数年間狙い続けてようやく巡り会っ
たこの瞬間。



津波あとに
【三陸復興国立公園】
【普代浜】

全てを流された浜にハマエンドウが咲きまし
た。
後ろに写る水門は村を守りました。



どろんこ
【国指定蕪栗沼・周辺水田鳥獣保護区】
【蕪栗沼】

ふゆみずたんぼで、どろんこ！タンチョウも
オオハクチョウもおいしいごちそうを探してい
ます。



ミヤマウスユキソウ
【磐梯朝日国立公園】
【月山】

日本のエーデルワイスと言われるミヤマウスユ
キソウ。
全体の綿毛が濃い霧を受け止めてできた水玉が
見事。



ベニナギナタダケ(紅薙刀茸)
【磐梯朝日国立公園】
【安達太良山】

安達太良山で見つけた不思議なキノコ。
その名の通り、紅い薙刀(なぎなた)のように見
えますね？